

# 研究業績目録

## 学位論文

1. 「カントに於ける自然の体系性に就いて」

修士論文

## 著書（単著）

- 該当無し

## 著書（共著）

1. 『カント哲学の現在』  
竹市明弘・坂部恵・有福孝岳編、世界思想社、平成五年一〇月  
「日本のカント研究の現在」(二八一～二九〇頁)
2. 『環境思想を学ぶ人のために』  
加茂直樹・谷本光男編、世界思想社、平成六年一一月  
「誰がどういう自然をまもるのか」(二一～三五頁)
3. 『生命倫理学を学ぶ人のために』  
京都生命倫理研究会編、世界思想社、平成一〇年一月  
「ケアの倫理」(二一一～二三三頁)
4. 『技術と身体—日本「近代化」の思想』  
木岡伸夫・鈴木貞美編著、ミネルヴァ書房、平成一八年三月  
「身体・家庭・社会の浄化—『優生運動』の医者たち」(二六七～二八一頁)
5. 『カントを学ぶ人のために』  
有福孝岳・坂部恵編、世界思想社、平成二四年五月  
「定言命法とはなにか」(一九〇～二〇六頁)
6. 『医学生のための生命倫理』  
盛永審一郎・松島哲久編、丸善出版、平成二四年九月  
「守秘義務」(一一六～一一七頁)、「輸血拒否」(一一八～一一九頁)、  
「包括同意」(一二〇～一二一頁)

論文（査読あり）

1. 「技術の本来の空虚さ」

『倫理学年報』第四二集、日本倫理学会、平成五年三月、二一～三五頁

論文（査読無し）

1. 「カントにおける体系的統一の理念について」

『哲学論叢』第一六号、京都大学哲学論叢刊行会、平成元年七月、二七～三九頁

2. 「美感的判断について」

『関西哲学会紀要』第二四冊、関西哲学会、平成三年三月、二二～二八頁

3. 「格率—現実的行為原理をめぐって—」

『道徳規範の妥当根拠の総合的究明—「なぜ道徳的でなければならないのか」という問いをめぐって—』、平成二・三年度科学研究費補助金総合研究A（研究代表者溝口宏平大阪大学教授）研究成果報告書、平成四年三月、一一九～一三〇頁

4. 「技術者の責任」

『ライフサイエンス』第一九巻第六号、社団法人生命科学振興会、平成四年五月、五六～五九頁

5. 「技術の善し悪し」

『環境技術』二二巻一二号、環境技術研究協会、平成五年一二月、五五～五八頁

6. 「Quality of Life—基本的反省と提起されている問題—」

『紀要』第二四巻、和歌山県立医科大学進学課程、平成七年三月、一～二二頁

7. 「技術との自由なかかわり」

『紀要』第二九巻、和歌山県立医科大学教養部、平成一二年三月、一～一五頁

8. 「X線画像とからだ」

『思想』二〇〇一年七月号、岩波書店、平成一三年七月、一五七～一七四頁

9. 「医師養成における倫理（学）的思考の位置づけ—普通の医者への作り方—」

『文部科学省科学技術振興調整費（科学技術政策提言）科学技術倫理教育システムの調査研究 平成一五年度ワークショップの記録』（研究代表者新田孝彦北海道大学大学院文学研究科教授）、平成一六年三月、二〇三～二一一頁

10. 「ありふれた営みもしくは Vita Activa—「マルタとマリア」、エックハルトの義解—」  
『紀要』第三三巻、和歌山県立医科大学教養部、平成一六年七月、二九～五五頁
11. 「健康の概念化」  
『応用倫理学各分野の基本的諸概念に関する規範倫理的及びメタ倫理学的研究』平成一六・一七年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)平成一六年度研究成果報告書(研究代表者坂井昭宏北海道大学大学院文学研究科教授)、平成一七年二月、六五～七七頁
12. 「人世三宝説」—「健康」論の視点から  
『比較文明的アプローチにおける技術と自然の変容過程序説』平成一六～一七年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(研究代表者木岡伸夫関西大学文学部教授、平成一八年三月、一一九～一三五頁)

#### 学会発表

1. 「美感的判断について」  
関西哲学会第四二回大会、個人研究発表、平成元年一〇月、於同志社大学
2. 「技術との自由なかかわり」  
日本倫理学会第五〇回大会、共通課題報告「二〇世紀—倫理学への問い」、セッションD「科学技術と倫理学」で報告、平成一一年一〇月、於大阪大学

#### その他

1. <翻訳> マイケル・ロックウッド編著『現代医療の道徳的ディレンマ』  
加茂直樹監訳、竹山他一〇名分担訳、晃洋書房、平成二年二月  
編著者による序論(一～一四頁)ならびに術語集(三八七～四〇四頁)を担当
2. <翻訳> シュレーダー・フレチェット編『環境の倫理』上・下  
京都生命倫理研究会訳、竹山他二四名分担訳、晃洋書房、平成五年四月  
編者による論文「環境についての責任と古典的倫理理論」(三〇～四八頁)を担当
3. <事典項目> 『カント事典』

有福孝岳・坂部恵編、弘文堂、平成九年一二月

項目「価値判断」、「感情」、「合目的性」、「美学的判断」、「田辺元」を担当

4. < 研究報告書 > 『「からだ」についてのイメージ・知の再検討、そしてその再構築の試み』

平成八～一〇年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 研究成果報告書、平成  
一一年三月、研究代表者竹山重光和歌山県立医科大学助教授

5. < 翻訳 > カント 『諸学部の争い』

角忍・竹山重光共訳、『カント全集』一八巻、岩波書店、平成一四年一一月、  
一～一五六頁、訳者解説共同執筆

6. < 翻訳 > カント 『書簡1』

北尾宏之・竹山重光・望月俊孝分担訳、『カント全集』二一巻、岩波書店、  
平成一五年四月

書簡番号一八～一〇八(七五～二七六頁)、訳者解説分担執筆

7. < 研究報告書 > 『根源的「からだ」イメージの探求、そこからの倫理的考察』

平成一一～一四年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 研究成果報告書、平成  
一五年四月、研究代表者竹山重光和歌山県立医科大学助教授

8. < 翻訳 > クリスティーン・コースガード 『義務とアイデンティティの倫理学—規範  
性の源泉—』

竹山他四名分担訳、岩波書店、平成一七年三月

第七講トーマス・ネーゲル「普遍性と反省する自己」(二四一～二五三頁) なら  
びに第八講バーナード・ウィリアムズ「歴史、道徳、反省のテスト」(二  
五五～二六五頁)を担当

9. < 研究報告書 > 『満足する理性。カント実践哲学への感情論的アプローチ』

平成二一年四月(これは対応する科研費研究の報告書として起稿された。研  
究費交付期間中に報告書作成規程が変更され冊子体は不要になったのだが、  
すでに執筆にはいていたので別途私費によって作成された)

## 競争的資金獲得実績

### < 研究代表者 >

1. 「からだ」についてのイメージ・知の再検討、そしてその再構築の試み

平成八～一〇年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)

2. 根源的「からだ」イメージの探求、そこからの倫理的考察  
平成一一～一四年度科学研究費補助金基盤研究 (C)(2)
3. 満足する理性。カント実践哲学への感情論的アプローチ  
平成一七～二〇年度科学研究費補助金基盤研究 (C)

< 研究協力者 >

1. 応用倫理学の新たな展開—倫理学におけるマクロ的視点とミクロ的視点の総合をめざして  
平成六・七年度科学研究費補助金総合研究 (A) (研究代表者佐藤康邦東洋大学文学部教授)
2. 二一世紀日本の重要諸課題の総合的把握を目指す社会哲学的研究  
平成一三～一五年度科学研究費補助金基盤研究 (B)(1) (研究代表者加茂直樹京都女子大学現代社会学部教授)
3. 科学技術倫理教育システムの調査研究  
平成一四・一五年度文部科学省科学技術振興調整費 (科学技術政策提言) (研究代表者新田孝彦北海道大学大学院文学研究科教授)
4. 応用倫理学各分野の基本的諸概念に関する規範倫理的及びメタ倫理学的研究  
平成一六・一七年度科学研究費補助金基盤研究 (B)(2) (研究代表者坂井昭宏北海道大学大学院文学研究科教授)
5. 比較文明史的アプローチにおける技術と自然の変容過程序説  
平成一六・一七年度科学研究費補助金基盤研究 (B)(1) (研究代表者木岡伸夫関西大学文学部教授)

< 共同研究者 >

1. 日本の近代化過程における技術と身体 of 思想  
平成一六年度国際日本文化研究センター共同研究 (研究代表者木岡伸夫関西大学文学部教授、幹事鈴木貞美同センター教授)